

巻頭言

竹尾 恵子

国立看護大学校長

*Keiko Takeo/President of National College of Nursing, Japan

平成13年に本学が開設して、早いものでほぼ4年が経ちました。来春には第1回の卒業生を送り出すこととなります。本学に着任され、教育に研究にと活躍される先生方の活動の結果を記録する場を提供したい、この紀要が身近な研究発表の場になってほしいと願って本誌の編集が始まりました。4年間の成果は如何だったでしょうか？ 第1, 2, 3巻を合わせ、総説4編、原著16編、報告10編、資料1編、合計31編の論文が載っています。そこに第4巻の10編が加わります。このように見てみますと、本学の研究紀要を皆さんが活用し、論文を投稿してくださっている様子がうかがえます。またこれら紀要の内容をホームページに載せて、多くの方々に利用していただいてもいます。

本紀要の発行は1年に1回ですが、私にとって紀要の論文募集が始まると、1年間の自分の教育研究活動を振り返る、あるいは整理しておく良い機会になっています。この1年、自分はどんな活動をしたのか、何が足りなかったのか、今後、どのように方向を定めていこうか、と考えるきっかけになるのです。

こうして記録を積み重ねていくことで、自分の教育研究活動の成果が目に見える形になり、加えて多くの方々の研究が積み重なり、看護のエビデンスが得られてくるのだと思うと嬉しい限りです。また、本学の歴史的資料としても今後、重要なものになっていくことでしょう。

本学の4年生は今年、看護研究をまとめて卒業していきます。先日その提出が締め切られ、近日中に発表会がもたれる予定ですが、学生たちもこれら紀要に載った教官の研究論文を読み、自分の研究に役立て、また、今後も参考にしてほしいと願っています。

平成17年4月には政策医療看護学の研究課程部(大学院修士課程相当)が本学に発足します。研究活動はますます盛んになり、大学院での研究活動の発表の場としても本紀要が大いに活用されるようになるだろうと期待しています。本学の目指すところは高度医療に対応した看護研究、臨床に密着した看護研究、国際的視野に立った看護研究を推進していくことです。

こうした特徴をそなえた発表論文がたくさん出てくるように、今後の教官、研究者のご努力をお願いしたいと思います。